

# 世界に散らばる「ロシアン・ルーツ」の起業家

## ーロシア国外におけるスタートアップ・エコシステム（第1回）ー

ロシアにおけるスタートアップシーンでは、エコシステムは政府主導で形作られたシステムチックなものとなっている（[ジェトロ「地域分析レポート」2019年6月「ロシア・デジタル経済政策とスタートアップ生態系」参照](#)）。新産業の振興や科学技術開発の促進、起業家と投資家に対してお互いのアクセスを容易にするなど、基盤整備という面で、これらは必要な施策だ。

その一方で、スタートアップの成長は、人と人との出会い・繋がりから大きな変化が生まれる側面がある。本稿では、ロシアのスタートアップシーンを人的交流という側面から捉え直し、相対的に欧米よりも情緒的な面を持つロシア人起業家たちが、お互いに助け合う互助精神のもと、彼らが相互にどのようにコミュニティと関わっていくのか、また、コロナ禍で進んだオンラインコミュニケーションやオンラインコミュニティが、いかにロシア人起業家たちを成長させていくのかを浮き彫りにする。

## 政府主導と“在外のロシア系起業家”のエコシステム

ロシア政府は、石油や天然ガスなどの資源採掘・輸出に依存する経済構造からの脱却を目指し、「デジタル経済化」を掲げている。産業振興や生産性向上、社会インフラの整備を通じ、生活の質の向上と社会・経済構造の変革を進めている。ソ連時代からの優れた理数系教育や、科学技術開発などもこれを後押しする。このような流れの中、小規模ながらも優れた技術力を持つスタートアップがロシアでも育ちつつある。

これまでロシアのスタートアップシーンは、政府主導で進められるスタートアップ・エコシステムの文脈で語られることが多かった。

政府が主導するロシアのスタートアップ支援の本丸は、2010年に設立されたスコルコヴォ・イノベーションセンターだ。モスクワ中心部から南西に車で1時間ほど離れた、荒地を開拓して作られたこのスタートアップの集積地では、ロシア経済の多様化に貢献すること目的に、省エネ、IT、原子力、バイオを優先分野として、新技術の商業化支援が行われている。2021年8月時点の入居スタートアップ数は約3,000社。モスクワの空の玄関口・シェレメチェヴォ空港から鉄道乗り換え一回

で乗り入れできるなど交通の便もよい同地域は、国内外から多くの投資家がアクセスする。名実ともにロシアのイノベーションの中心地と言える。

スokolov入居者に代表されるロシア政府の支援を積極的に受けるスタートアップがいる一方で、海外に散らばったロシア人起業家やベンチャー投資家とのコミュニティに属し、これらのネットワークを活用してグローバルな成長を志向するスタートアップ起業家たちも存在する。ロシアのスタートアップシーンの中で、これまで後者について語られることはあまりなかった。その一方で、在米のロシア系起業家やロシア語圏の起業家、さらにはロシア系またはロシア語圏のベンチャー投資家の動向は、今のロシアのスタートアップシーンに大きな影響を与えている。これらを知ることが、ロシアのスタートアップ・エコシステムを理解するうえでも重要となっている。

## ロシアから羽ばたいた急成長スタートアップ企業

2021年10月現在、ロシアに本拠地をもち、急成長したスタートアップ企業としては、EC最大手のワイルドベリーズ (Wildberries)、クラシファイド広告のアヴィト・ルー (Avito.ru) ファッション EC のラモダ (Lamoda) などがある。そのほかにもユニコーン企業予備軍 (創業から10年以内、企業評価額が10億ドル以上の未上場の企業) として、英会話学習のスカイング (Skyeng)、ビデオ・オンデマンドサービスのイヴィ (ivi.ru) などがある。

(表1) ロシア国内の急成長スタートアップ企業、またユニコーン企業予備軍

企業名	創業年	企業評価額 (2021年2月時点)	概要	創業者
ワイルドベリーズ (Wildberries)	2004	145億2,000万 ドル	総合ECモール	タチヤナ・バカル ルチュク氏
アヴィト・ルー (Avito.ru)	2007	49億ドル	クラシファイド 広告	ヨナス・ノード ランダー氏、 フィリップ・エ

				ンゲルバート氏
ラモダ (Lamoda)	2011	22億ドル	ファッション EC	ドミニク・ピッ カー氏、フロリ アン・ヤンセン 氏他
イヴィ (ivi.ru)	2010	7億900万ドル	ビデオ・オンデ マンドサービス	オレグ・トゥマ ノフ氏
スカイング (Skyeng)	2012	1億6,500万ド ル	英会話学習	ゲオルギー・ソ ロヴィエフ氏、 ハリトン・マト ヴェーエフ氏他

出所：forbes.ru から筆者作成

また、上記以外にも、ロシアや旧ソ連地域から、海外へ進出した急成長企業やユニコーン企業も多数存在する（表2参照）。ウクライナ発の英語ライティングを自動校正してくれるクラウドソリューションを提供するグラマリー（Grammarly）や、オープンソースのDevOps製品を開発するギットラブ（Gitlab）（注）、ベラルーシ人が創業した営業関連の書類作成・共有・署名・保管をデジタル化する米国のスタートアップ企業パンダドック（PandaDoc）、アルメニア発の画像・動画編集アプリのピクスアート（Picsart）などがこれにあたる。

(表2) ロシア・旧ソ連地域から海外に進出した急成長スタートアップ企業

企業名	本拠地	創業年	企業評価額 (2021年8月時点)	概要	創業者
テレグラム (Telegram)	ドバイ	2013	300億ドル	メッセージア プリ	パヴェル・ドゥ ーロフ氏、 ニコライ・ドゥ ーロフ氏
ギットラブ (Gitlab)	米国	2011	27億5,000万 ドル	オープンソー ス DevOps	シツツェ・シブ ランディ氏、 ドミトリ・ザポ ロジェツ氏
オクシアル (OCSiAl)	ルクセンブ ルク	2009	20億ドル	グラフィック ノチューブの 開発・製造	ミハイル・プレ デチェンスキー 氏、 ユーリ・コロパ チンスキー氏他
インドライバー (InDriver)	米国	2012	12億3,000万 ドル	配車サービス アプリ	アルセン・トム スキー氏
グラマリー (Grammarly)	米国	2009	10億ドル	AI 英文添削 ツール	アレックス・シ ェフチェンコ 氏、 マックス・リト ヴァイン氏
ピクスアート (Picsart)	米国	2011	10億ドル	写真・動画編 集アプリ	ホブハン・アボ ヤン氏、 アルタバズド・ メフラビヤン氏

パンダドック (PandaDoc)	米国	2011	10億ドル	営業関連の書類デジタル化ツール	ミキータ・ミカド氏、セルゲイ・バリシウク氏
----------------------	----	------	-------	-----------------	-----------------------

出所：rb.ru、Techcrunch などから筆者作成

ロシアのスタートアップは、アーリーステージであっても積極的に海外に法人を設立し、グローバル展開をベースとした戦略をとる。この背景には、内的要因として①ロシア国内のベンチャーマネーが相対的に少ないこと、②創業者や投資家が株式を売却し、利益を手にする為のエグジット先が少ないこと（新興の上場市場の欠如、限られた大手企業だけがM&A先となる）、③市場開拓のハードルが高いこと（国内経済の主要プレイヤーである国有企業などとの業務提携の難しさ、④一般消費者向けビジネス（to C）における消費者の購買力が低いことほか、外的要因として⑤ベンチャーマネーとエグジット先が豊富な米国や欧州に存在するロシア系ベンチャーキャピタルやエンジェル投資家などが、彼らが拠点とする地域へ、これらアーリーステージのロシアスタートアップを進出させ、進出先で投資を実行することがある。

すなわち、ロシア国内のベンチャー投資統計は、ユニコーン企業を含む大型の資金調達を含めその実態を正確に表したものとはいえない面があることに留意する必要がある。

さらには、ロシア・旧ソ連諸国出身者やそれら諸国からの移民を創業者にもつユニコーン企業が多数存在する。「ロシアン・ルーツ」という言葉がある。スタートアップ業界では、創業者にロシア人ないし旧ソ連諸国出身者、またはロシア系移民がいるスタートアップに対して用いられる。創業者がロシア語でコミュニケーションができるスタートアップと言い換えてもいいだろう。このロシアにルーツを持つスタートアップの中に、世界にも多くユニコーン企業がいることはあまり知られていない。

例えば、英国で今最も企業価値が高いフィンテック企業である「レボリュート（Revolut）」の創業者ニコライ・ストロンスキー氏は、モスクワ郊外で生まれ、理系では超難関校と言われるモスクワ物理工科大学を卒業している。その後、大学院で経済学の修士を取得し、ロンドンでリーマン・

ブラザーズのインターンシップに参加するために、20歳で英国に渡っている。共同創業者でCTOのヴラッド・ヤツェンコ氏はウクライナ出身である。

それ以外にも、東シベリアのウラン・ウデ出身のアルセニー・ヴェルシニン氏（ペルソニオ（Personio社）共同創設者。モスクワ物理大学を卒業後ミュンヘンに移住し大学時代の同級生とともに同社を創設）や、家族とともにソ連崩壊直前に米国に移住し、ウェブフロー（Webflow）社を創設したマグダリン兄弟などがある（表3参照）。

（表3）ロシア系移民を創業者にもつユニコーン企業

企業名	本拠地	創業年	企業評価額	概要	創業者
レボリュート (Revolut)	英国	2015	330億ドル	デジタル銀行/海外送金サービス	ニコライ・ストロンスキー氏(CEO)
ゴーパフ (GoPuff)	米国	2013	89億ドル	食料品・日用品のデリバリーapp	ラファエル・イリシャエフ氏(CEO)
シラ・ナノテクノロジーズ (Sila Nanotechnologies)	米国	2011	33億ドル	リチウム電池の開発・製造	エブゲニー・ベルディチェフスキー氏(CEO)、 グレプ・ユーシン氏(CTO)
ウェブフロー (Webflow)	米国	2013	21億ドル	サイト制作ノーコードツール	ヴラド・マグダリン氏(CEO)、 セルゲイ・マグダリン氏(CXO)
ペルソニオ (Personio)	ドイツ	2015	17億ドル	SME向け採用・人事管理プラットフォーム	アルセニー・ヴェルシニン氏(CTO)

出所：rb.ru から筆者作成

1980年代後半から90年代の初めにかけて欧州ではいわゆる「鉄のカーテン」が消滅し、ソ連が崩壊した。この時期に多くのロシア人や旧ソ連諸国民が、米国に移住した。米国におけるロシア系語圏ディアスポラは、300万人を超えるとされるが、科学者など高度人材が多いことが特徴である。ソ連崩壊前後で米国に移住した世代の子供たちが、現在、米国のテクノロジー産業で活躍しているのだ。

## オンラインコミュニティで繋がるロシアルーツの起業家たち

今なぜこの「ロシアン・ルーツ」が注目されるのか。それは、ロシアや旧ソ連諸国を拠点とする若い起業家たちと、これまで物理的な距離で分断されていた世界中に散らばるロシア系（ロシア語圏）起業家たちが、新型コロナをきっかけにオンライン上で繋がり、急速にコミュニティを形成しているからだ（表4参照）。その中では極めて速いスピードで情報交換や人的ネットワークづくりが進んでいる。シリコンバレーの現地トレンドや、人的ネットワークなどがダイレクトに、それもロシア語で、本国ロシアのこれから海外展開を考えているアーリーステージのスタートアップ企業にもたらされている。

(表4) ロシアスタートアップのオンラインコミュニティ

コミュニティ名	創始者	開始時期	プラットフォーム	メンバー数
ワイ・コンビネーター・イン・ロシアン (Y combinator in Russian)	ニコライ・ダヴィドフ氏他	2018年	Facebook (プライベートグループ)	1万2,000人
シリコン・プラヴダ (Silicon Pravda)	イワン・ノヴィコフ氏	2018年	YouTube、Telegram 他	2万人(YouTube) 6,000人(Telegram)

メスト (Mesto)	ニコライ・ ダヴィドフ氏、 アンドレイ・ ドロニチェフ氏 他	2020年	ウェブサイト、 Instagram	2万人(Web) 2万2,000人 (Instagram)
スタートアップ・コチキ・ヴァイシー・キッチン (Startup Kotiki VC Kitchen)	イーゴリ・ ショيوف氏	2020年	YouTube、Facebook (プライベートグループ)	6,000人(YouTube) 6,000人(FBグループ)

2020年4月、ロシアでも新型コロナウイルスの感染が拡大する中、YouTube上で「ロシアン・シリコンバレー (Russian Silicon Valley)」と名付けられた一本の動画が公開された。ロシアで最も人気のあるユーチューバーの一人でありジャーナリストでもあるのユーリー・ドゥディ氏が、シリコンバレーにいるロシア人起業家やベンチャー投資家のインタビューを通して、同地のロシア人テック起業家たちの実態に迫る3時間の動画である。この動画は、4,000万回の再生を数え、ロシアのテック業界で非常に高い関心を呼んだ。

この動画の冒頭で、ドゥディ氏と対談し、その後シリコンバレーの他の登場人物を紹介する役割を果たすのが、在米のベンチャー投資家のニコライ・ダヴィドフ氏だ。同氏の出資先が、イワン・ノヴィコフ氏が率いるワラーム社 (Wallarm、ウェブ・アプリケーションのセキュリティ保護) である。同社は、シリコンバレーで最も有名なシードアクセラレーターであるワイ・コンビネーター (Y combinator) の出身企業で、ワイ・コンビネーター (Y combinator) のプログラムに参加した卒業生や投資家たちに相談を持ちかける場所として、ダヴィドフ氏やノヴィコフ氏らが中心となってFacebook上のグループ「ワイ・コンビネーター・イン・ロシアン (Y combinator in Russian)」を2018年9月に立ち上げた。



「ロシアン・シリコンバレー (Russian Silicon Valley)」が公開された2020年4月、ダヴィドフ氏は、共に動画に出演したアンドレイ・ドロニチェフ氏 (Google 本社でYouTube のモバイルアプリを開発) と共同で、まだアイデア段階の起業家やアーリーステージのスタートアップ企業向けのオンラインコミュニティ「メスト (Mesto。ロシア語で「場所」の意) を立ち上げた。

ノヴィコフ氏は、2018年末からYouTube のビデオブログ「シリコン・プラヴダ (Silicon Pravda)」も運営している。このYouTube のフォロワーのグループチャットとして生まれた同名のテレグラムチャンネルには、6,000人以上が参加しており、活発な情報交換が行われている。このように、シリコンバレーではロシア系 (ロシア語圏) 起業家が主催するコミュニティが次々と生まれ、ロシア語人材の有機的な輪が日々拡大している。

(注) ギットラブ (Gitlab) は、本稿執筆中の2021年10月14日に米国ナスダックに上場したため、厳密にはユニコーン企業を外れる。

#### 【本レポートの利用についての注意・免責条項】

本レポートは、日本貿易振興機構 (JETRO) がモスクワ事務所を通じて、現地の調査会社 SAMI に委託し作成したものです。調査を実施した2021年10月時点で入手した情報に基づくものであり、その後の市場変化や法律改正などによって内容が変わっている場合があります。掲載した情報・コメントは作成委託先の判断によるものであり、一般的な情報・解釈がこのとおりであることを保証するものではありません。また、本レポートはロシアに関するスタートアップ企業の動向概要をまとめたものであり、必要情報を網羅しているものではありません。あくまでも参考情報の提供を目的としており、本レポートにて提供する情報に基づいて行為をされる場合には、必ず個別の事案に沿った具体的な助言を別途お求めください。JETROおよび SAMI は本レポートの記載内容に関して生じた直接的、間接的、派生的、特別の、付随的、あるいは懲罰的損害および利益の喪失については、それが契約、不法行為、無過失責任、あるいはその他の原因に基づき生じたか否かに関わらず、一切責任を負いません。これは、たとえJETROおよび SAMI がかかる損害の可能性を知らされていても同様とします。

#### 禁無断転載